
滅びた世界、そして失ったもの・・・

辰巳 翔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

滅びた世界、そして失ったもの・・・

【Nコード】

N5515M

【作者名】

辰巳 翔

【あらすじ】

これは、「魔法少女リリカルなのは」世界を守りし者達」の主人公、「辰巳リュウセイ」と「フィリア」、そしてリュウセイとフィリアの友が、なぜリイマジの世界に行ったのか、そして、何を失ったかを書いた話です。

(前書き)

作「ふう・・・終わったぜ！」

リュウセイ「だな」

フィリア「でもグタグタ」

作「それはいわないでえ」

リュウセイ「それでは」

作・リュウ・フィリ「始まります！」

――第三者――

ここはある小学校の廊下・・・

リュウセイ「はぁ・・・学校はやっぱめんどい・・・」

サヨ「だらしないよぉ」。リュウセイ「

*リュウセイとサヨ（フィリア）の設定は「魔法少女リリカルなのは」世界を守りし者達」をご覧下さい

レン「サヨのいうとおりだ。リュウセイ「

彼は秋川レン。リュウセイとサヨの幼馴染み

リュウセイ「お前まで言うかぁ・・・」

啓^{けい}「おぉーい！霧崎、秋川、月風！」

霧崎とは、リュウセイの名字だ。

リュウセイ「んぁ？なんだ？」

啓「お前らさ、文化祭のことについて話し合っの忘れてないか？」

リュウ・サヨ・レン「あ・・・」

啓「たく・・・早く会議室にこいよな！」

サヨ「りょくかい。」

そういつて啓は戻っていった

その時

キイイイイイン!

リュウ・サヨ・レン「!!」

レン「ミラーモンスター!」

リュウセイ「はやくいくぞ!」

そして三人は人のいない場所に来ると

リュウ・サヨ・レン「変身!」

ミラーワールド

龍騎「な・・・!」

ファム「何この数!」

ナイト「多すぎる・・・!!」

ミラーモンスター「ぐおおおお!」

龍騎「やるしかねえか!」

ファムとナイトは頷く。そして、三人はミラーモンスターに向かっていった。

現實世界

啓「……おそいな、あいつら」

まさと
雅人「なにしてたか・・・」

鈴「もう一回呼んでくる？」

ひの
日野「そうしょつか」

だが、その時、鏡から怪物が出てきた

鈴「きやあああああああ！」

啓「うわあああああああ！」

みんなは逃げまどう。しかし……

セナ「いやああ！こないで……こないでええええええ！」

なんと女子生徒の一人がミラーワールドに連れて行かれてしまった。

そのころ・・・ミラーワールド

龍騎「はあ……はあ……」

ナイト「きりがない……」

ナイト「このままじゃ、みんなやられちゃう！だから、はやくいけ！みんなでやられるよりはましだ！」

龍騎「……………生きて、帰ってこいよ……………レン」

ファム「絶対だよ」

ナイト「ああ……………」

龍騎とファムはミラーワールドから出た

<ソードベント>

ナイト「はああああ！」

セナ「きゃ！？」

ナイト「大丈夫か！？」

セナ「そのこえ……………レン君！？」

ナイト「ああ……………とにかく、逃げるぞ！」

セナ「うん」

……………リュウセイ……………

はあ……………はあ……………無事でいてくれ……………みんな！

リュウセイ「はあ……………はあ……………着いた……………父さん！母……………さ……………」

」

「……俺が家に入ってみたもの。それは……」

リュウセイ「家に……ミラーモンスターが……！」

そう、家には大量のミラーモンスターがいた。

リュウセイ「そんな……父さん！母さん！」

父「リュウ……セイ……」

リュウセイ「！父さん！」

父「は……やく、この世界から……にげ……ろ」

リュウセイ「え……？」

この世界から逃げろ？という事だ？

リュウセイ「父さん、どういう事！？」

父「この世界は……もうすぐ終わる……」

リュウセイ「なっ……！」

父「お前だけでも……にげ……ろ……」

リュウセイ「無理だよ！父さんと母さんをおいて行くなんで！」

父「いいからいけ！！・・・強制的だ・・・渡！」

すると灰色のオーロラが現れ、中から人が出てきた

渡「なんですか？雅希^{まさき}さん」

雅希「こいつを連れて行ってくれ！」

渡「！！・・・ですが・・・」

雅希「悩んでる暇はない！早く！」

渡「・・・分りました」

そういつて俺のことを抱きかかえる

リュウセイ「離せ！俺はいやだ！父さん母さんも、一緒に逃げるんだああ！」

渡「本当に良いんですか？」

雅希「ああ・・・リュウセイ、立派な男になれよ・・・」

その時、灰色のオーロラが現れた

リュウセイ「父さあああああああん！」

俺はこう叫んで、灰色のオーロラに包まれた

・・・サヨ・・・

母さん・・・父さん・・・

サヨ「やつとついた・・・・・・・・っ！嘘・・・・・・・・ミラーモンスターが・
・・！」

信じたくなかった。この光景は。

サヨ「嘘・・・そんな・・・父さん！母さん！」

私は急いで家に入った

母「その声・・・サヨね？」

サヨ「母さん！大丈夫！？」

母「私は・・・もう駄目だわ・・・」

サヨ「諦めないでよ！早く、安全なところに・・・！」

母「この世界に、安全な所なんてないわ・・・」

サヨ「え・・・？どうして!？」

母「この世界は、もう終わる・・・だから」

サヨ「だから・・・？」

母「貴方だけでも、逃げてちょうだい・・・・・・・・」

え・・・・・・・・？私が母さんと父さんをおいて逃げる・・・？

サヨ「無理よ！そんなの・・・できっこないじゃない！」

母「貴方に、拒否権はないわ。もう決めた事だから・・・」

サヨ「勝手に決めないでよ！」

母「・・・渡さん、来て下さい」

母さんが言った瞬間、灰色のオーロラが現れて、中から人が出てきた

渡「なんでしょう、理彩^{りさい}さん」

理彩「この子を・・・連れて行ってちょうだい・・・」

サヨ「！母さん！？」

渡「貴方もですか・・・」

理彩「え・・・？」

渡「雅希さんもそうでした。後悔はしませんね？」

理彩「ええ・・・しないわ。自分で決めた事だもの・・・」

サヨ「私は・・・私は・・・！」

理彩「渡さん、早く！」

渡「分かりました」

そういつて、男の人は私を抱きかかえた。そしたら、突然灰色のオーロラが現れた

サヨ「母さん………」

理彩「じゃあね……サヨ。元気に……育つてね………」

サヨ「母さん……母さああああああん！」

これを最後の言葉にして、灰色のオーロラに包まれた

……第三者……

こっちはレンが戦っている学校の現実世界……

ナイト「この……！はあああ！」

セナ「レン君………」

ミラーモンスター「があああ！」

一体のミラーモンスターがセナにおそいかかった！

ナイト「セナに……近づくなああああああ！」

<ソードベント>

ナイト「はあああ！」

だが、その時もう一体のミラーモンスターがナイトの後ろにいた

ミラーモンスター「ぐおおおお！」

ナイト「ぐああああ！」

セナ「レン君！」

ナイト「くっ！はぁ・・・はぁ・・・」

セナ（私には、何も出来ないの！？見てることしか！迷惑をかけることしか出来ないの！？助けたい・・・レン君を・・・

・・・助けたい！）

その時、セナの目の前に光の玉が現れた。その光は、セナの下へ降りてきた

セナ「え・・・？」

セナは不思議に思いながら降りてきた光を受け取った。すると光は、カードデッキになっていた。

ナイト「っ！それは・・・！」

レンが驚くのは無理もない。セナの手の中にあったカードデッキは・・・「リュウガ」になるためのカードデッキだったのだから

セナ「これを使えば・・・！」

ナイト「やめろ！！セナ！お前は、戦わなくていい！」

セナ「でも・・・！」

ナイト「俺の大切な人には、傷ついて欲しくない！」

セナ「それは私も一緒だよ！」

ナイト「！？」

セナ「私にとって、レン君は大切な人だもん！私だって・・・私だって、これ以上レン君に傷ついて欲しくないの！！」

ナイト「お前・・・」

セナ「だから、私は変身する！大切な人を、好きな人を傷つけさせないためにも！変身！」

セナが居たところにはセナではなく、リュウガが立っていた

そのころ、リュウセイ達は・・・

リュウセイ「ここはどこだ・・・？」

サヨ「リュウセイ・・・」

リュウセイ「サヨ！！・・・お前も、父さん達と・・・」

サヨ「うん・・・そうだ！レンは！？もうすぐあの世界は滅びるのに、レンはまだあの世界に！」

リュウセイ「くっそ！どうやってここからでられんだ！？」

渡「貴方達がここからでる必要はありません」

リュウ・サヨ「！？」

渡「貴方達には、これからある世界で生きてもらいます・・・。雅希さんと理彩さんの思いを無駄にしないためにも・・・。」

リュウセイ「父さんたちの・・・。」

サヨ「思い・・・。」

渡「雅希さんたちは本当は辛かったです・・・。ですが、貴方達はまだ小学生・・・まだ生きていて欲しかった。だから辛い決意をして貴方達のことを僕に任せたいと思います」

リュウセイ「・・・俺たちは、これからどうすれば良いんですか？」

渡「貴方達には、リイマジの龍騎の世界に行ってもらいます」

サヨ「リイマジ・・・？」

渡「簡単に言えばもう一つの龍騎の世界です」

リュウセイ「・・・分かりました。行きます、その世界に」

サヨ「リュウセイ!？」

リュウセイ「渡さんがいったように父さんたちの思いを無駄にしないためにも……」

サヨ「あ……でも、レンは!？」

渡「それは大丈夫です。貴方達が行った後にたすけます。もう時間がありません、貴方達は早く!」

リュウセイ「分かりました。行こう、サヨ」

サヨ「うん……レンをお願いします」

渡「はい」

二人は灰色のオーロラに包まれた

そのころレン達

ナイト「セナ……」

リュウガ「レン君……やろう、二人でなら出来るよ。きっと」

ナイト「……ああ!」

<サバイブ>

ナイトSV「サバイブいくぞ!」

リュウガ「うん！」

<ストライクベント>

リュウガ「はぁぁぁ！」

ナイト「セナ！耳ふさいでた方がいいかも！」

リュウガ「うん」

<ナステイベント>

キイイイイイ！

ミラーモンスター「がぁぁぁ！」

ナイト「はっ！」

ミラーモンスター「ぐおお！」

リュウガ「たぁぁぁ！」

ミラーモンスター「ぐぎやぁぁぁ！」

ナイト「き……きりがない……」

リュウガ「レン君、大丈夫？」

ナイト「はぁ……はぁ……無理かも……」

その時、灰色のオーロラが現れ、二人を包み込んだ

ナイト「なんだ・・・？これは・・・」

そういつて変身がとけ、レンはその場に倒れた

セナ「レン君！！」

渡「なんとか、間に合いましたね」

セナ「あなたは・・・？」

渡「僕は、紅渡です。あなたたちには、少し休んでもらいます。レン君も、倒れてしまったので、説明するにも出来ませんので。セナさんも、我慢しないでいいですよ？初めての戦いで疲れたでしょうし」

セナ「はい。・・・ありがとう・・・ごさいま・・・す」

倒れそうになったセナを、誰かが支えた。その人物とは・・・

？「まさか、お前がこんな事もするなんてな」

渡「誰かと思ったら、ディケイド・・・いや、士さんですか」

士「だから何だ。こいつらの世界が滅びたのは、俺のせいじゃないよな？」

渡「はい。あなたのせいではありません。ショッカーの仕業です」

士「そうか……。鳴滝の奴、まだやってんのか」

渡「そのようです。士さん、皆さんはどうしたんですか？」

士「あれからあってない。というか、どうやったらあえるのかしらん」

渡「簡単なことです。夏美さん、ユウスケさん、きて下さい」

夏美「ここ何処ですか？……！！」

ユウスケ「さあ？……って士！」

士「まさか、本当にあえるなんてな……」

渡「夏美さん、ユウスケさん、これからは士さんも一緒に旅をしますので」

夏美「士君、これからもよろしくお願いしますね」

士「ああ……。礼をいうぞ。渡」

渡「いえ、たいしたことではありませんので。それでは、お気を付けて」

三人は灰色のオーロラに包まれ、もとの場所に戻っていった。その時の三人は笑顔だった

渡「さて、この二人を神の所に運びますか。あの二人は、無事に着

いたでしょうか」

そのころリュウセイとサヨ・・・

リュウセイ「ここは？」

シンジ「あれ？君たちかな？渡が言ってた人って」

これが、のちにリュウセイの義理の兄になる、辰巳シンジとの出会いだった

リュウセイ達がリイマジの龍騎の世界にきて3日たち・・・神の家では・・・

レン「う・・・ここは・・・？」

セナ「あ、起きた？レン君3日も寝てたんだよ？」

レン「そんなに・・・てか、ここは？」

セナ「なんか、神って奴の家らしいよ」

神「そうじゃ」

レン・セナ「うわ！」

神「な、なんじゃ・・・」

渡「あ、起きましたか。突然ですが、貴方達にはリイマジの龍騎の世界、つまりもう一つの龍騎の世界に行ってもらいます」

レン「否定権は？説明は？」

神「あるわけないじゃろ。とにかく、いつてら」

と神が言うと、二人はまた灰色のオーロラに包まれた。その際にレンが「ふざけんなこのクソ爺いい！」

とか叫んでいたとかいなかったとか

渡「これで良かったんですね・・・」

神「ああ・・・あやつらもまだ幼いからな」

こうして、リュウセイ、サヨ、レン、セナは、新たな世界で生きていくことになった。未来に、また違う世界に行くことになるとは知らずに・・・

（後書き）

リュウセイ「ああ・・・思い出したくない・・・」

フィリア「父さん・・・母さん・・・」

レン「よほどの事だったんだな・・・」

セナ「うん・・・私は、家族が居ないからわかんないや。てか、今回長いね」

レン「俺もそう思う」

作「ちなみに、レンとセナは保護施設でそだっています」

レン「まあ、なんとか終わってよかったな」

作「うん、よかった。あ、君ら付き合ってたんだよね？」

レン・セナ「え？」

作「いや、だってさ、レンは「俺の大切な人には」って言ってて、セナは、「好きな人」ってのはつきりいつてたしい・・・」

レン・セナ「／／／／」

作（くく、おもしろえ〜）「それでは、また本編の方でお会いしましょう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5515m/>

滅びた世界、そして失ったもの・・・

2010年10月11日19時27分発行